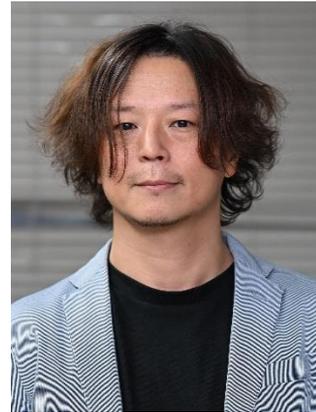


〔奨励賞 学術文化部門〕

おおしま・あきひで

1. 氏名 大島 明秀
2. 年齢 48歳 ※2023年11月3日時点
3. 肩書 熊本県立大学文学部教授
4. 住所 熊本市



【受賞理由】

もともと「鎖国」という言葉はなく、長崎の阿蘭陀通詞だった蘭学者・志筑（しづき）忠雄（1760～1806）が後世に生み出した造語だった。

主著の「『鎖国』という言説」は、出島に滞在したドイツ人医師の著書「日本誌」を志筑が部分訳した「鎖国論」の大量の写本を分析し、鎖国という概念が国学者らにどのように解釈されていったかを読み解いた。考察は、帝国主義を推し進めた明治以降の歴史教科書で、鎖国が否定すべき非文明的な時代として描かれたことにも及び、現代人の対外意識をも縛っている「鎖国」観に一石を投じた。

近著の「蘭学の九州」でも志筑らの業績を紹介するとともに、蘭学の嚆矢とされる杉田玄白らの「解体新書」に先駆けて西洋外科書が和訳されるなど、九州は蘭学の最先端であったことを明らかにした。

【主な著書】

2007年	「蘭学のフロンティアー志筑忠雄の世界」（長崎文献社、共著）
2009年	「『鎖国』という言説」（ミネルヴァ書房）
2012年	「熊本洋学校（1871-1876）旧蔵書の書誌と伝来」（花書院）
2013年	「長崎・東西文化交流史の舞台 ポルトガル時代／オランダ時代」（勉誠出版、共著）
2016年	「近世日本の歴史叙述と対外意識」（勉誠出版、共著）
2017年	「近世日本の国際関係と言説」（溪水社、共著）
2018年	「細川侯五代逸話集」（熊日出版）
2018年	「天然痘との闘い 九州の種痘」（岩田書院、共著）
2022年	「菊池市石淵家蔵地球儀の総合的研究」（菊池市教育委員会）
2022年	「蘭学の九州」（弦書房）
2022年	「中津市歴史民俗資料館 分館 医家史料館叢書」第22巻（中津市教育委員会、共著、第1巻〈2003年〉から継続刊行）